



The Pragmatics Society of Japan
日本語用論学会

NEWSLETTER

<http://www.pragmatics.gr.jp>

No.37 / Spring 2017

会 長 加藤 重広

事務局 〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町 1

京都ノートルダム女子大学 人間文化学部英語英文科 小山哲春 研究室内

事務局連絡先 psj.secretary@gmail.com

郵便振替口座 00900-3-130378 口座名:日本語用論学会

ゆうちょ銀行 ○九九支店 当座預金 店番号 099 口座番号 0130378 日本語用論学会

日本語用論学会 Newsletter 第 37 号をお届けします。第 20 回大会（20 周年記念大会）の概要についてのお知らせがあります。

★会長メッセージ

<「新しさ」の意味>

加藤 重広(北海道大学)

今年は、日本語用論学会にとって特別な年です。昨年の本欄にも記しましたが、日本語用論学会は、1998 年 10 月に設立の呼びかけがなされ、同年 12 月 5 日に第 1 回大会を開催しました。よって、今年度の大会は第 20 回大会にあたります。現在、設立 20 周年記念大会として準備を進めています。20 周年と聞くと人間なら成人にあたると感慨にふけりたくなりますが、学会設立時を起点にすると実は 20 年ではなく現時点で 18 年半、今年度の大会時でも 19 年ほどが経過するに過ぎません。いわゆる満年齢ではなく、数え年なら語用論学会も今年二十歳ですが、満年齢の二十歳は 2018 年 12 月まで待たなければならないのです。学会誌の『語用論研究』も今年度刊行するのは第 19 号で、来年度第 20 号を刊行することになっていますし、ほかにも企画を計画中です。今年度から来年度にかけて 20 周年に関する記念イベントがいくつかあると考えていただければと思います。どうぞご期待ください。

昨年末の下関市立大学における大会では、次

回大会を関西外国語大学で行うと予告したところですが、さまざまな事情で当初の計画通りには開催できなくなり、期日を 1 週間繰り下げて今年の 12 月 16 日（土）と 17 日（日）に（なお、前日 15 日（金）にも企画を予定しています）、京都工芸繊維大学を会場として上述の 20 周年記念大会を開催することになりました。詳細は、大会予告をご覧ください。

下関での大会は、どの程度の参加者が見えるのか不安に思っておりましたが、200 名を越えるほどでいつもの大会に劣らぬ賑わいでした。私自身は、美しい関門海峡の夕景と下関の街、「ふく」をはじめとする美味しい海の幸にすっかり魅了され、近いうちにゆっくり個人的に観光に訪れる機会をつくりたいと考えているくらいです。

さて、4 月は新しい年度が始まり、進学や就職などで人々が新しい環境に身を転じる季節でもあります。大学等の教育機関に身を置いていると、毎年この季節には、新しい学生が入ってきます。「新しい」学生は、「新しい」生活が始まり、「新しい」学期も始まります。私など「古い」教員は、「新学期」は毎年来るものの、自分自身はどんどん古くなっていくばかりです。

試みに『岩波国語辞典』（第七版）で「あたらしい」を引いてみると、「成り立ってから、または現れてから、まだ時が経っていない」とあります。Oxford Dictionary of English では 'new' の説明に produced, introduced or discovered recently or now for the first time とあり、not existing before と

もあって、後者のような、単純な記述は他の辞書にも見られます。「新しい商品」などは、商品の出現時からあまり時間が経過していないので「新しい」わけですが、「新しさ」は時の流れとともに失われていきます。時間の経過によってどの程度属性が変化するかはものによってさまざまではありますが、未使用のまま風化や劣化がなくても「新しさ」は徐々になくなります。要するに、「新しい」かどうかはそのものの本有的属性ではなく、現実世界の中で与えられる評価や認識であることがわかります。それ自体は変わらなくとも、放っておけば時間が経ち、「新しい」状態ではなくなっていくわけです。

こういった「新しさ」は何かを「期待させる」のですが、時間の経過とともに、そういった気持ちもだんだんしぼんでいきます。昨年度拝命した「新」会長の仕事も、主に私自身の能力の問題があって十分に会員のみなさんの期待に応えるレベルに達してはいないと思います。それでも、学会のホームページから論文投稿や大会発表応募ができるようになったり、大会参加が申し込めるようになったり、少しずつ「新しい」ことを始めています。もちろん、その一方でセキュリティや予算の問題もあって、使い勝手にはまだまだ改善の余地があることも認識しています。すべてを一気に解決するような魔法はないのですが、改善はできるところから行う予定です。

さきほど新学期的なことから「新しさ」について触れましたが、明治時代は新学期が9月だったという記述もあります。夏目漱石の『三四郎』は、熊本の旧制の第五高等学校を出た三四郎が帝大に入学するために上京する場面から始まりますが、第三章冒頭には新学期が「九月十一日」に開始したという記述が出てきます。『三四郎』が執筆されたのは1908（明治41）年頃ですが9月入学は明治末年頃までで、その後、会計年度にあわせて新学期は4月開始に変更されたようです。既に百年ほどが経過しているので、現在存命中の方はほとんど4月開始の日本の学校年度しか知らないということになります。

桜の時期でない入学式など考えられないとおっしゃる方もありますが、かりに入学式を秋に行うように変更したとしても、その新しさもじきに失われていき、もしかしたら入学式と残暑のイメージに多くの人が慣れてしまうかもしれません。もちろん一斉に九月入学への変更をすべきだと主張しているわけではなく、現実的にはいくつもの困難が伴うことはよくわかっています。誰も慣れた状況が変わることを望まないの、新しく変えることには抵抗があるものですが、ただ、変えてしまえば思いのほか早く

適応できるものだと思うのです。

「新しさ」には期待もありますが、抵抗もあります。いずれにしても、その「新しさ」もいずれ摩滅していくわけで、「新しい」というのは、楽しいことばかりでなく、切なく悲しい面もあるのだと感じます。「あたら」という形態とのつながりも思い起こされますが、音位転換(metathesis)に触れる紙幅はなさそうです。

学会の投稿システムの新規導入も、できるだけ使いやすく改修することは先ほど述べたとおりですが、早く会員のみなさんに馴染んでいただき、「新しい」と感じないようになることを望んでいます。

* 日本語用論学会第 20 回大会（20 周年記念大会）ご案内 *

2017 年度の第 20 回大会は、20 周年記念大会として、以下のとおり、京都工芸繊維大学（松ヶ崎キャンパス）での開催となります。会員の皆様からの発表ご応募・ご参加をお待ちしております。なお、未確定部分につきましては、確定次第、順次 HP で更新してまいりますので、ご確認ください。

◆日時・場所 12 月 16 日(土)、17 日(日)

◆場所：京都工芸繊維大学（松ヶ崎キャンパス）60 周年記念館・東 3 号館（旧・ノートルダム館）〒606-8585 京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町

◆主なプログラム

≪12 月 16 日（土）≫

9:30 受付開始

10:00～11:50 20 周年記念シンポジウム

11:55～12:45 ポスター発表①

（昼食休憩／会員総会）

13:10～15:05 研究発表①

15:10～16:40 一般ワークショップ・張紹杰先生特別講義

16:50～18:20 基調講演 講師：Prof. Hart

18:30～20:00 懇親会

（一般 4000 円、学生 3000 円。参加費は大会受付にてお支払いください）

≪12 月 17 日（日）≫

9:00 受付開始

9:30～11:25 研究発表②

11:30～12:20 ポスター発表②

12:50～14:2 基調講演 講師：Prof. Culpeper

14:30～16:30 東アジア特別国際シンポジウム

16:30～16:40 閉会の挨拶

◆大会テーマ：「語用論の貢献と将来」

◆基調講演者: Jonathan Culpeper 氏(Lancaster University)、 Christopher Hart 氏(Lancaster University)

◆20周年記念特別シンポジウム
テーマ「語用論研究の広がり：語用論の関連分野からの提言」
酒井弘氏、松本曜氏、定延利之氏

◆東アジア特別国際シンポジウム
テーマ：「東アジアの語用論 (Pragmatics in East Asia: Its practice and contribution)」
講師：詹全旺 Zhang、Quanwang 氏 (中国 Anhui University 安徽大学)
王萸芳 Wang、Yu-fang 氏 (台湾 National Kaohsiung Normal University 国立高雄師範大学) および韓国から一名 (予定)

日本語用論学会 20周年記念大会・プレコンフェレンス(Pre-conference)

◆日時：2017年12月15日(金)
◆場所：京都工芸繊維大学(松ヶ崎キャンパス) 60周年記念館1階大ホール
〒606-8585 京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町
◆日本語用論学会 20周年記念特別セミナー
◆テーマ：ことばとコンテクストのより深い理解に向けて-語用論研究のアプローチを探る(予定)

◆講師 Jonathan Culpeper 氏(Lancaster University) ; Christopher Hart 氏(Lancaster University) : What is cognitive linguistic approach to critical-discourse analysis? (認知言語学的アプローチを用いた語用論 (批判談話分析))

◆発表募集

発表演語は日本語と英語のいずれかで、発表形態は、今まで通り、口頭発表、ポスター発表、ワークショップの3種類です。なお、ワークショップにつきましては、一つのテーマについて様々なアプローチとから深く検討し研究者の交流が図れる良い機会でもあり、今後も一層促進していきたいと思っておりますので、皆様是非奮って応募いただきますようお願いいたします。以下に応募要領を示します。公募日程は下記の通りです。

- 投稿締め切り：2017年7月28日(金)
- 採否通知：2017年9月下旬
- 大会 Abstract 原稿締切：2017年10月13日(金)

- 大会発表論文集(Proceedings)原稿締切：2018年3月31日(土)

①発表形態

- 1) 口頭発表：発表25分+質疑応答10分
 - 2) ポスター発表：1時間(掲示時間)
 - 3) ワークショップ：1時間40分、特定のトピックについて3名以上の団体(司会者を含む)で応募(ワークショップは団体発表のみとなります)。
- ②発表演語：日本語もしくは英語。

③発表申し込みについて

オンラインでの投稿のみになります。投稿受付サイトは6月初旬に開設予定です。オンライン投稿の方法はホームページ上で後日紹介します。

<申し込み原稿の形式>

申し込み原稿の体裁：発表の種類にかかわらず、申し込み原稿はすべて同じ体裁となります。

用紙サイズ：A4

規定文字数：日本語2,500字以内、英語500 words以内。(参照文献は文字数の制限に含めません。)
ファイル形式：Microsoft Word形式(doc、docx)、PDF形式(pdf)

- ・氏名と所属は記入しないでください。
- ・発表タイトルの後に、一行空けて本文を記入してください。
- ・ワークショップは、全員分の要旨を規定文字数以内に取りまとめてください。
- ・参照文献のフォーマットは『語用論研究』に準じます。
- ・また、規定から逸脱した形式、ファイルで応募した場合は、不採用となることがあります。

<申し込み原稿の留意事項>

申し込み原稿には、表現や構成のわかりやすさと説明の一貫性が求められます。また、以下のような点について過不足なく論じる必要があります。

- ・問題となる現象
- ・その現象についての先行研究と問題点
- ・現象の分析に用いるデータ
- ・現象の分析方法
- ・現象の分析結果
- ・分析結果に基づく結論と理論的含意

<申し込み制限>

一人の会員が申し込みできるのは一大会につき2件まで(Workshopを「含む」)です。ただし、

このうち第一発表者（またはWorkshopのCoordinator）として申し込みできるのは1件に限られます。

<二重投稿の禁止>

口頭発表・ポスター発表・ワークショップへの発表申し込みにおいて、二重投稿を禁止します。大会運営委員会が二重投稿と認めた場合、その申し込みを受理せず、また次年度の大会での、当該の申込者を発表者に含む発表申し込みを受理しません。

※1.二重投稿とは、他の学会で既に発表した、もしくは発表の申し込み中である内容、また、既に学術的刊行物に掲載された、もしくは投稿中である論文と極めて類似する内容で申し込みをすることです。

※2.学士論文、修士論文、博士論文は、まだ公表・出版されていない場合には、「学術的刊行物」に含めません。

※3.既に学会の発表や学術的刊行物への応募で不採択が決定している内容での申し込みは、二重投稿に含めません。

◆申し込み資格

発表の申し込みは会員に限ります。第一発表者が会員でない場合、必ず申し込みと同時に入会の手続きが必要になりますのでご注意ください。

◆選考結果について

選考結果は9月下旬に第一発表者に通知します。

◆発表会場に現れない、もしくは、ポスターを貼ってあるだけで説明員がまったくいないなどのいわゆる"No Show"に対する措置

発表が採択されたにもかかわらず、大会当日に大会運営委員会に無断で発表を行わない、もしくはポスターの掲示のみで説明を行わない場合に、これらを"No Show"とみなし、本学会のホームページにて公表します。ただし、事前もしくは当日に、また、やむをえない場合には事後に、発表を行えなかった合理的な事情の説明があった場合には、「キャンセルされた発表」とみなします。

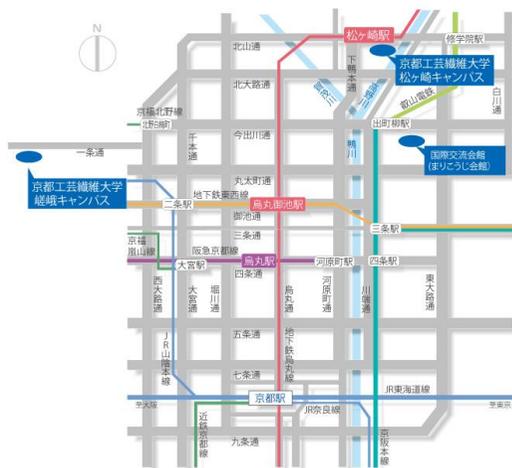
◆問い合わせ先

E-mail : presentation -at- pragmatics.gr.jp (大会運営副委員長・野澤 元 宛)

投稿に関するお問い合わせは、7月15日(土)までお願いします。

◆2017年度年次大会会場・京都工芸繊維大学への交通・宿泊について

[交通について]



京都駅より市営地下鉄烏丸線「国際会館」行きに乗車(約18分)「松ヶ崎駅」下車、徒歩約8分地下鉄松ヶ崎駅からのアクセス



地下鉄烏丸線「松ヶ崎」駅より徒歩約8分。
(出口1から右(東)へ400m進み4つ目の信号を右(南)へ180m)

[宿泊について]

この時期の京都周辺のホテルは例年混み合いますので、予約は早めをお願いします。場合によっては大阪府や滋賀県のホテルでも JR 京都線・琵琶湖線の沿線なら比較的短時間でご来場になれます。交通機関を確認のうえ、ご利用ください。

地区研究会コーナー

★中部地区

中部地区研究会では、2016年12月12日に名

古屋大学にて、マックスプランク心理言語学研究所のグンター・ゼンフト先生の講演会を開催しました。下関での学会大会に引き続いての開催にもかかわらず、多くの聴衆が集まり盛況な会となりました。論題は、"The Trobriand Islanders vs H.P. Grice: Kilivila and the Gricean maxims of quality and manner": パプアニューギニア、トロブリアンド島のキリヴィア語話者は、グライスの質の格率、方法の格率に従った言語行動をしない、したがってグライスの主張する「会話の推意の普遍性」は疑わしい、といった内容でした。

(北野浩章)

★中国九州地区

3月22日(水)、九州大学大学院言語文化研究院で第4回九州山口地区語用論研究会が開催された。当日は発表順に、塩田裕明(久留米大学非常勤講師)「英語討論における疑似分裂文-話法の観点からの分析-」、王琪(九州大学大学院地球社会統合科学府博士後期課程1年)「不同意表明における中日母語話者の逆接対比表現の使用-自然会話データをもとに-」、土屋智行(九州大学大学院言語文化研究院助教)「英語定型表現のメディア・場面による交差的分析」の研究発表が行われた(所属、学年等は、いずれも昨年度のもの)。塩田氏は、アメリカの政治討論で使われる疑似分裂文の時制と話し手の政治的立場の関係を論じた。王氏は、大学生の日常会話で不同意表明に使われる逆接対比表現の出現位置と共起表現について、中国語と日本語の比較対照を行った。土屋氏は、氏が作成中の「旅行課題遂行会話データベース」を用いて、メディア・場面ごとにおける英語定型表現の分布の傾向を分析した。年度末に各種の学会や研究会が集中している関係で、参加者は計8名と多くはなかったが、各発表に対する質疑応答は充実しており、発表者を含め参加者間で生産的に議論できた。2016年度は、九州山口地区では、この1回の開催だったが、全国学会への足掛かりという本研究会の趣旨を踏まえ、今後は年内の開催数を増やせるように努力していきたい。

(西田光一)

★メタファー研究会

メタファー研究会では、夏の陣(京都大学)、冬の陣(語用論学会 WS)、M-II 時間のメタファー(関西大学)を開催しました。

夏の陣では、2016年7月2日(土)13:00-17:40に60名の参加を得て京都大学総合人間科学棟1102教室で行われました。「コーパスを利用したメタフォリカル・パターン・アナリシス

(MPA)の紹介-FEARのメタファーを例に」中野阿佐子(関西大学[院])、「感情の比喩-字義表現の産出過程-」岡隆之介(京都大学[院])、「<感情は液体>メタファー表現の成立基盤と制約-概念メタファー理論の「まだら問題」をめぐって-」後藤秀貴(大阪大学[院])ディスカサント松本曜(神戸大学)・鍋島弘治朗(関西大学)、「気象現象と日本語メタファー表現-光と遮蔽物をめぐって-」松浦光(名古屋大学[院])、「人の心と空模様:シェイクスピアのメタファーをめぐって」大森文子(大阪大学)、「比喩の面白さ認知のメカニズム:“わかる”ほど面白い?」平知宏(大阪市立大学)。

冬の陣は、「会話をデータとするメタファー研究の方法と実践」と題して、第19回年次大会のワークショップとして、2016年12月10日に下関市立大学にて行われました。第1発表「会話データの収集方法」杉本 巧(広島国際大学)、第2発表「メタファーの配置と相互行為」杉本 巧(広島国際大学)、第3発表「話の展開とメタファー写像-認知メタファー理論の観点から-」中野阿佐子(関西大学大学院)、第4発表「『こう』を随伴する描写」串田 秀也(大阪教育大学)・林 誠(名古屋大学)。当日は約60名の参加を得て、活発な質疑応答が行われました。

M-II 時間のメタファーは、120名の参加を得て3月16日(木)9:30-17:00 関西大学第1学舎A601で行われました。「人工物と時間のメタファー」鍋島弘治朗(関西大学)、「時間概念再考」岩崎真哉(大阪国際大学)、「日本語の時空間メタファーにおける“動き”と“眺め”の表現について」大神雄一郎(大阪大学[院])、講演「哲学における時間論の系譜」宮原勇(名古屋大学)、講演「時間知覚の不良設定問題と錯覚」一川誠(千葉大学、時間学会会長)、シンポジウム 時間を巡る時間 「時間のメタファーを巡る理論的変遷」谷口一美(京都大学)、「時空間メタファーにおける時間概念の多重性について」本多啓(神戸市外国語大学)、「時間メタファーの言語相対性」篠原和子(東京農工大学)コメンテーター 一川誠 宮原勇 今井むつみ、講演「語彙習得とメタファー」今井むつみ(慶応大学)。

また、12月21日(水)17:30-19:30 京都大学教育学部本館1F第一会議室において、ビピン先生(Bipin Indurkha (ポーランド Jagiellonian 大学教授)に Thinking Like A Child: The Role of Surface Similarities in Stimulating Creativity (子どものように考える:創造性を刺激する知覚的類似性の役割)のテーマでご講演いただきました。

(鍋島弘治朗)

《事務局より》

★熊本地震被災会員の皆様の会費・大会参加費免除について

2016年度に引き続き、平成28年熊本地震で被害に遭われた会員の皆様に対し、お申し出いただくことにより「2017年度会費」ならびに「2017年度年次大会(2017年12月)の参加費」を免除させていただきます。被災地の皆様方の一日も早い復興を心からお祈りしております。免除申請先(メール、郵送、電話のいずれも可、まずはご連絡いただけましたら手続きの詳細をご連絡させていただきます。)

日本語用論学会事務局

〒606-0847

京都市左京区下鴨南野々神町1

京都ノートルダム女子大学 人間文化学部英語英文学科 小山 哲春 研究室内

E-mail: secretary@pragmatics.gr.jp

Phone: 075-706-3670

★PSJ 公式 HP リニューアルのお知らせ

1.新 HP への移行と電子投稿システムの運用開始
語用論学会のホームページがリニューアルされましたので、どうぞご利用ください。

<http://www.pragmatics.gr.jp/> (URL は変更なし)

新しい機能として、会員専用ページから学会誌『語用論研究』への論文投稿ができるようになりました。また、受付期間は先ですが、会員専用ページから大会発表応募や参加申込みもできるようになります。年会費のカード払いも以前同様可能です。

2. 会員専用ページへのログイン方法

新 HP の会員専用ページは、セキュリティ強化のため二段階認証になっています。ログインは以下の通りにユーザ名/ログイン名、およびパスワードを入力して行ってください(すべて半角小文字)

第一段階認証:

ユーザ名(user): basic

パスワード(password): psj

第二段階認証(マイページログイン画面)

ログイン名: 学会にご登録のメールアドレス

パスワード: 以前通知してあるもの

パスワードを忘れた場合は、「パスワード忘れた方」をクリックすると新しいパスワードが登録されたアドレスに送信されます。マイページ(会員専用ページ)で登録情報の確認・修正をお願い

します。

★平成28年度(2016年度)大会会計報告

収入		
年会費	2日分(4口)	20,000
	一般 4口(@5,000)	20,000
大会参加費	(2日分、166口)	376,000
現会員・新入会員	122口(@2,000)	244,000
非会員	44口(@3,000)	132,000
懇親会費(56口)		
	一般 42口(@4,000)	168,000
	学生 14口(@3,000)	42,000
プロシーディングズ(3口) 3,000		
	3口(@1000)	3,000
下関観光コンベンション協会助成金		
		200,000

① 計 **809,000**

支出		
印刷費(大会プログラム、プロシーディングズ等)		172,800
郵送費		5,988
事務局諸費		222,629
人件費		192,600
文具費など		30,029
講師渡航費・謝金等(4名)		392,791
懇親会		221,454
施設使用料		28,000

① - ② = **-234,662**

収支 — **234,662円**

★平成28年度決算報告(案)

収入	前年度繰越残高	4,080,790
年会費(438口) 2,127,000		
	一般 359口(@5,000)	1,795,000
	学生 71口(@4,000)	284,000
	団体 8口(@6,000)	48,000
大会参加費(2日分、166口) 376,000		
	現会員・新入会員 122口(@2,000)	244,000
	当日会員 44口(@3,000)	132,000

懇親会費 (56 口)		210,000
一般	42 口 (@4,000)	168,000
学生	14 口 (@3,000)	42,000
大会論文集		4,500
下関観光コンベンション協会大会助成金		200,000

合計		6,998,290
----	--	-----------

支出

印刷費・郵送費 (大会プログラム・プロシーディングズ・学会誌等)		529,897
学会ホームページ、サーバーサービス関連費		39,089
事務局諸費		838,577
人件費 (学生アルバイト等)		192,600
会議費		141,372
文具費・掲示物作成費		70,406
学会運営活動に対する交通費等補助		424,695
その他 (手数料など)		9,504
会員管理業務委託費		244,436
会員管理システム利用費		188,373
システム導入 (システム開発) 費		594,000
ホームページリニューアル費		585,684
学会システム維持費		154,440
地区研究会運営費		45,000
言語系学会連合会費		20,000
講師渡航費・謝金等		399,487
懇親会		221,454
大会施設使用料 (下関市立大学)		28,000

合計		3,888,437
----	--	-----------

次年度繰越金 3,109,853

★ 会費納入のお願い

◆年会費は、一般会員 6,000 円、学生会員 4,000 円、団体会員 7,000 円でございます。11 月までに、ご納入いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。学会口座は以下の通りです。

【郵便振替】

口座番号：00900-3-130378

口座名：日本語用論学会

【ゆうちょ銀行】

支店名：099

口座種類：当座

口座番号：130378

口座名：日本語用論学会

学会ホームページの「会費専用ページ」より、クレジットカード決済も可能でございます。

会員ステータス、会費納入、会員専用ページへのログイン等に関するお問い合わせは、事務局ではなく下記までお願いいたします。

日本語用論学会 会員管理室

psj@outreach.jp

今年度から年会費を変更させていただきました。また三井住友銀行の口座は閉鎖させていただきました。

ご負担をお掛けいたしますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

★学会誌編集委員会より

S/P19 より、投稿もウェブサイトからしていただく方式になりました。そもそもログインできないというお問い合わせもいただくなど、ご迷惑をおかけしましたが (会員ページへのログインに二段階の認証が必要という仕様が原因だったようです)、なんとか、すべての投稿をウェブサイトで受け付けることができました。/今号の投稿数は 20 件でした。昨年が 13 件でしたので 7 件の増となりました。ありがとうございます！今号から特集テーマを導入した効果と見てよさそうです。1 つでも多くの論考が掲載されるようお願いいたします！

(S/P 編集委員長・滝浦真人)

★ プロシーディング委員会より

日本語用論学会では、毎年の大会で発表された論文をとりまとめ、大会後に『大会発表論文集』として発行しています。第 18 回大会

(2015 年 12 月) 発表分より、紙媒体ならび CD 媒体による発行を廃止し、当学会ホームページ上における電子媒体のみの発行となっております。第 19 回大会 (2016 年 12 月) では、『論文集』に関するお知らせを受け取っていない発表者の方がいらっしゃる事が判明しましたので、当初の締切 2017 年 3 月 31 日を、2017 年 5 月 7 日まで延長しました。夏ごろの発刊を目指しています。

(委員長・首藤佐智子)

《新刊・近刊案内》

■『自然論理と日常言語 ことばと論理の統合的研究』山梨正明 (著) ひつじ書房 (定価 3,200 円 + 税)

日常言語には、創造的で柔軟な思考・判断を可能とする〈自然論理〉(Natural Logic) のメカニズムが密接に関わっている。本書では、日常言語の文法現象や意味現象の具体的な考察を通して、自然論理のメカニズムと日常言語のメカニズムの諸相を明らかにしていく。また、従来の論理学と言語学の研究の統合を目指す認知科学的な視点から、言葉と論理に関わる人間の創造的な知のメカニズムの諸相を明らかにしていく。

(2017.5.15 刊)

■『基礎から分かる会話コミュニケーションの分析法』高梨克也(著) ナカニシヤ出版(定価 2,400 円+税)

本書は、会話データの分析を始めようとしている言語学や心理学、社会学などの分野の初学者や、コミュニケーションに関わるさまざまな実践職の方など幅広い読者に向けて書かれている。さまざまな会話コミュニケーション場面・現象を明示的な方法論を用いて観察し、理論的かつ体系的に説明しようとするときに最初に参照することに適した入門書である。

本書は、「順番交替」「連鎖分析」「基盤化」の3つの章からなる第1部を出発点として、これにこれを「マルチモダリティ」と「多人数会話」という2つの方向に理論的に拡張する第2部、より複雑な社会的・認知的環境を分析対象とする際に有効な「成員カテゴリー」「関与配分」という概念を紹介する第3部が続く、というように、前の章から順に読み進めていけば基本概念同士の関係が理解できるように構成されている。各章とも、前半の「理論編」では当該章の基本概念や考え方がコンパクトに分かりやすく説明されているため、基本的な事項のみを一通り学習することが可能である。また、各章後半の「分析編」では理論編で導入した分析概念を応用した研究事例が紹介されているため、より踏み込んだグループ・ディスカッションのための教材としても利用できる。

(2016.7.30 刊)

■『語用論研究法ハンドブック』加藤重広・滝浦真人(編) 澤田淳、椎名美智、堀江薫、松井智子、清水崇文、熊谷智子、木山幸子、加藤重広、滝浦真人(執筆) ひつじ書房(定価 2,800 円+税)

一見とっつきやすいかに見える語用論研究の鍵は「方法」にある。本書は、理論・枠組み・方法論などの基礎を正しく理解して研究を進めるためのガイドブックとして企画された。総説、ダイクシス、社会語用論、対照語用論、実験語用論、会話分析、応用語用論、統語語用論、語用論

調査法にわたり、第一線の専門家が詳しく実践的に解説する必携の一冊。

(2016.11.28 刊)

■『ディスコース分析の実践 メディアが作る「現実」を明らかにする』石上文正、高木佐知子(編著) 稲永知世、相田洋明、富成絢子、仲西恭子(著) くろしお出版(定価 2,700 円+税)

様々なメディアがことばを用いて構築している「現実」が、いかなる姿をしているのかを、批判的談話(ディスコース)分析の手法、とくにフェアクラフの理論を用いて明らかにしようとする試み。『ディスコースを分析する』の実践編。

(2016.11.20 刊)

～編集後記～

■昨年同様、今年も日々の気温の変化が激しく、何かと体調を崩しがちですが、会員の皆様にはますますのご健勝・ご活躍を願いつつ、ここにNL37号をお届けいたします。本号では、第20回大会のお知らせを掲載しております。会員の皆様からの発表ご応募をお待ちしております。

また、PSJ公式HPリニューアルのお知らせを掲載いたしました。今後も、単なる事務局からのお知らせだけではなく、何か会員の皆様からの声をお届け出来たらと思っております。語用論関連の新刊・近刊書の情報も歓迎致します。ニューズレターにご投稿ご希望の方は、どうぞ担当者までお知らせ下さい。(堀田秀吾 記)

■PSJ-NLは今号より紙媒体を廃止し、電子配信のみとなりました。具体的にはPDFデータの会員メーリングリスト配信、公式ホームページ掲載を行います。従来行っていた会員への紙面郵送は行いませんのでご了承ください。それによって配信時期の早期化など、情報提供の利便性向上に努めて参ります。会員の皆様のご協力をよろしく願います。(山岡政紀)

日本語用論学会 Newsletter 第37号

発行：日本語用論学会広報委員会

発行日：2017年5月18日

[広報委員会]

* 委員長：山岡政紀

* Newsletter 編集担当：

堀田秀吾 (hotta@meiji.ac.jp)

* 公式ホームページ担当：尾谷昌則

* 会員メーリングリスト担当：金丸敏幸